

荒子川上流へテラピアの越冬を見に行きました

平成21年11月23日 天気 晴 水温 21℃

技術士（衛生工学） 本堀 雷太



本来熱帯地方に生息するテラピアは水温が10℃以下では生息が困難となります。故に我が国では温排水が流れ込む水域や温泉地、沖縄等の温暖な地方で繁殖することが知られています。荒子川は上流の三菱重工、三菱化学から排出される温排水や打出下水処理場から流入する高度処理水の影響で、年間を通じて水温が10℃を下回ることはほとんど無く、生息・繁殖が可能となっています。しかしながら、さすがに冬になると水温低下を嫌い、上流へ遡上するテラピアの群れの姿が見られます。今回は荒子川最上流部の八田駅周辺へ越冬するテラピアを見に行きました。

荒子川の上流部（左写真）は川幅も1~2m程しか無く、水深も30cm程ですが、温排水の影響で11月末でも水温は21℃もありました。



川の中を見ますと川底を埋め尽くすほどのテラピアがいます（上左写真）。大きさは10~20cm程の個体です。エサ（食パン）を一切れ投げ入れますと、猛然と取り合います（上右写真）。本来は非常に警戒心が強い魚なのですが、エサを目の前にすると豹変してしまいます。エサではなく、釣りに使うウキ（ピンク色）を入れただけでも、エサと勘違いして集まってきました（右写真）。

試しに食パンを針に掛けて投げ入れますと、簡単に釣れました（下写真）。大型の個体は警戒心が非常に強く橋の下に隠れており、エサを橋の下に投げ込むと釣れました（27cmのオス）。

